

(様式2)

議事録番号

提出 平成29年 9月 13日

会合議事録

研究会名：ソフト界面科学研究会

日時：平成29年9月4日 10:00～12:00

場所：広島大学・東千田キャンパス・東千田未来創生センターM201 教室

出席者：(議事録記載者に下線)

斎藤健一 (広島大自然科学セ)、矢野陽子 (近畿大理工)、宇留賀朋哉 (JASRI)、谷田肇 (日産アーク)、久米卓志 (花王)、瀧上隆智 (九大基幹)

計6名

議題：最近の研究紹介(2件)および意見交換

議事内容：ソフト界面に関する研究動向について研究会メンバー間での情報共有を目的に、以下のプログラムに沿って研究会会合を開催した。

10:00～10:10 主旨説明 (瀧上隆智)

10:10～10:50 講演1 (斎藤健一先生/広島大)

「塗布法で作製した高分子薄膜の3次元構造：

GIXD測定と物性・デバイス特性との相関」

10:50～11:20 講演2 (瀧上隆智/九州大)

「ソフト界面膜不均一構造と線張力」

11:20～11:45 意見交換

「新分野、新領域に関する研究開発ニーズの収集」

「研究開発成果の展開について」

「SPring-8次期計画に関して」

今回の会合では、ソフト界面科学分野での重要な研究テーマの一つである「高分子薄膜の3次元構造」に関するGIXD法を駆使した先端研究のご紹介、「液/液界面膜における不均一構造形成と線張力との関り」に関するX線反射率法に

基づいた最新の研究動向について講演頂き、闊達な意見交換がなされた。特に導電性高分子薄膜の量子ドット化による高効率かつ高解像での発光・発色を薄膜の3次元構造の制御により合理的に達成する成果、生体膜ラフトのような不均一膜形成の原理解明をドメイン境界線に働く線張力の観点から紐解く研究成果など、極めて興味深い研究内容であった。また、今後の研究展開・協同研究の方向性、新たな研究対象への適用性、新手法の展開についても意見交換を行った。